

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

⑥

一度は行ってみたい山、五葉山。平成十一年十月三日、初めて五葉山登山に挑戦できる念願の日がきた。私は七十一歳、一緒に行く人たちに迷惑をかけないよう心がける。

前夜から五葉山麓にある「あすなる山荘」に泊まっていた五葉山自然倶楽部で、森林浴や自然観察会を活動の主体とする緑想会主催の「自然を語る夕べ」に参加していた人たちと合流する。登山者は総勢二十三名となった。私は無駄なエネルギーを使わぬよう、先頭グループに付いて歩いてい

「父さん、とうとう五葉山に来たね」と無言で声をかける。先頭に立って案内役をしている紺野忠さんが、樹木の間からわずかにのぞく空間を指しながら「あそこが黒岩だよ」という。黒岩に着

九日の五葉山山開き、七月上旬のシャクナゲ鑑賞会、さらには五葉山麓での森林浴の催し。行くたびに新たな発見があり、新鮮な気持ちになる。五葉山の森の力なのかも知れない。いつも誘っていただき、案内をしていただく山の仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいだ。

ての五葉山登山。これを契機に秋田駒ヶ岳、八甲田山、早池峰山、尾瀬ヶ原など登山や散策を開始。「挑戦と努力」が元気の源。畑づくりと草取りに汗を流し、日ごろから登山に備える。八日町老人クラブの行事への参加が楽しみ。

2007年4月29日の五葉山山開き登山。五葉山自然倶楽部の仲間たちと。後ろに黒岩。雪の下にはツツジが夏に備えて出番を待っている(右から2人目が筆者)

71歳、父さんとの初登山

住田町上有住 金野 アキ子

いて驚いたのは、大きな岩がゴロゴロ重なり合っていることだ。黒岩は岩また岩の連続である。

朝からの風がますます強まっている。飛ばされそうになる帽子を両手でつかみながらも、大きく深い穴がある場所では、四つん這いになって歩

く大船渡市の日頃市町や盛町が、さらに登ると釜石市の観音様の白い頭を望むことができた。夢にまで見た五葉山登山。その思いをやっと叶えることができた喜びは言い尽くせない。

この登山をきっかけに、その後も五葉山に足を運んでいる。四月二十歳。七十一歳のとき初め



リリース
エッセイ